

## 第3回射水市観光振興計画策定委員会会議録

日 時：平成30年2月13日（火） 午後2時～3時30分頃

場 所：大島分庁舎3階大会議室

### ■会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 説明事項

①第2回射水市観光振興計画策定委員会会議録について 資料1

②射水市観光振興計画（素案）に関する意見募集結果について 資料2

4. 議 事

(1) 協議事項

①射水市観光振興計画（案）について 資料3

(2) その他

5. 閉会

### ■あいさつ

#### 部長あいさつ

- 第1回目の策定委員会では骨子案を、第2回目では計画素案を、本日は計画案をお示しし、最後の委員会と考えている。実効性のある計画となるよう委員の皆様からご意見をいただきたい。計画は、策定して終わりではなく、基本方針や目標が少しでも達成できるよう努めてまいりたい。

#### 委員長あいさつ

- 東京に帰省する際には、いつも外国人観光客（特にアジア圏）が多くみられるが、この観光客を富山に呼び寄せることが課題だと感じる。またメディアの情報によって雪が多く、富山に行く交通手段がないといったある意味風評被害のようなものも発生していると思われる。観光客を呼び込むための計画推進や正しい情報発信が必要である。本日の会議では、この計画をより良いものにしたかったのでご協力お願いしたい。

### ■第2回会議録及びパブリックコメントの説明

#### ●事務局説明

- 議事録の間違いなどがあった場合には事務局まで報告いただきたい。  
1月に実施したパブリックコメントは3件の意見があった。（1名）  
これらの内容については議会後にHP等で公表する。

### ■協議事項

(1) 射水市観光振興計画（案）について

#### ●事務局説明

委員長：

- 前回までの委員の意見及びパブリックコメントの内容を反映した射水市観光振興計画（案）について説明があった。この案について誤字・脱字や表現の指摘、また具体化していくための方法や事例があればご意見いただきたい。

委員：

- P 6 3 の用語説明についてユニバーサルデザインとランドマークが同じ説明となっているため、修正してもらいたい。

副委員長：

- P 1 3 の沿革に「足利義材が5年間放生津に滞在したことがあります。」とあるが、滞在という表現ではなく、越中公方（越中幕府）として政権が樹立していたため、射水に室町幕府の政権が移ってきたことがあるとわかるようにしたほうがよい。

事務局：

- 学芸員に確認し、修正させていただく。

委員：

- P 3 0 施策1の下から4行目、「地域のブランド」を「地域資源」、「プロモーションのための」を「ブランド化」に変更するのが良いと思われる。

委員：

- P 4 1 観光客の受入基盤の整備として取組が記載されているが、現在のところ小杉駅や大門駅には射水市の観光案内所らしきものはほとんどないと感じている、今後、駅舎内に設置される場合は協力したいと考えている。また、県が実施している一日乗り放題切符というものがあるが、これにベイバスを組込むなど地道ではあるが、PRにつなげていけば良いと感じる。もっと県の企画を積極的に活用すべきである。また万葉線のドラえもん電車に乗車する東南アジア等の外国人が増えており、これを有効に利用して車内で市内の観光施設のコーポラルを流すなどのPRを行うべきである。

事務局：

- とやま乗り放題切符については、県にも相談している。今回は間に合わなかったが、今後、本格運行する際には、県にお願いしていく。また、万葉線を使ったPRについては、連携して取り組んでまいりたい。

委員：

- 小杉駅や越中大門駅について、利用客が28年度より29年度は増えているので射水市の観光PRにどんどん活用してほしい。

事務局：

- 小杉駅などでPRが少ないという指摘もあるので、平成30年度は、観光PRの方法について検討していくのでご協力お願いしたい。

副委員長：

- 以前も申し上げたが、Wi-Fiは外国人観光客にとっても必要なものであり、走っている電車にも無線ルーターをつけるだけで環境を整えられ、費用もあまりかからないと思うので働きかけを行ってほしい。

委員：

- パブリックコメントが一名だけであることに驚いた。計画策定に当たり、広く

市民から意見を募集したとあってよいのかが疑問である。パブリックコメント自体を知らなかった市民も多かったのではないかと感じる。

計画に用語解説があるのは良い。普通の人はこのような計画をあまり読まないと思うが、何かひとつ魅かれる言葉があると興味を持ったり、かかわったりするきっかけにもなるので言葉一つひとつを大事にしてほしい。

誤字脱字ということで、ICTの単語間違いがある。

内容としてはP43観光地の価値の保全と向上について【取組】がいくつか記載されているが、全て継続なのが気になっている。予算の都合もあるかと思うが、新規や拡充できる部分があれば良い。さらにP34のベイエリアのキラコンテンツ化の【取組】について、大好きな内川について重点的な取組としてあるので併せて考えていけば良いのかも理解しているが残念な気持ちもある。

また一番気になったのがP44に「つながる力」という言葉である。すごく良いとは思いますが、漠然とした内容しか記載されていないと感じる。各施策の重点的な取組につながる力について触れられていないように感じる。関連する内容としてP36には人の結びつきと記載があるが、一人ひとりの市民が参加できるような取組は入っていないように感じた。市民を対象にした何かが必要である。具体的には、観光客というよりも移住者との交流会等の場を設けることによって、よそ者目線や選ばれる地域になるためのヒントが得られると思うので外から来た市民の方たちとコミュニケーションや交流できる場を設けるも検討していけばどうか。

委員：

- P32情報発信の強化の【取組】としてSNSやGoogleストリートビューとあるが、例えばストリートビューで、建物の中の様子が見れるようにすると良いのではないか。また営業に行く機会に海外までとは言わないが、東京にある韓国や中国系の大企業等を訪問する際に市からも同行し生の声を聞いてもらったり、旅行会社等に東京近辺の県から射水市を入れた観光ルートを開発してもらって営業に行くなどの働きかけが必要である。

委員長：

- 委員の意見にもあったが、市民が参加する、地に足のついた計画が大切である。リーマンショック以降には、生き方や暮らし方を変えるとといった中で他に負けないような地域社会を作っていこうという議論がなされ、その延長線上にある観光振興計画が望ましいのではないかと感じる。

そこで、つながる力が関連してくるが、この計画を市民に伝えていく丁寧な取組が必要で、おもてなしなどのセミナーではなく、地域で頑張っている方と対話をするような取り組みの中でこの計画を伝え、具体化していくことをやっていかなければならない。

また委員から市場に出て営業を行うという意見があったが、そういった取組を行うためにも射水市の拠点となる場所があると良い。(例として南砺市の吉祥寺等)そこには、必ず射水市を歓迎する人たちや企業があり、発展していくと思う。

委員：

- P 2 9 の図については市民の皆さんに見られるものになるかと思うが、その中のⅡ施策1の②番がとても重要であると感じる。基本方針にもあるが、ベイエリアをキラコンテンツ化し、その上で市内の回遊性向上につなげるという大切な柱であると思うため、施策1の見出しにも入れたほうがよい。また施策4の見出しの広域観光については「広域観光の推進」にした方がよい。また全体的に受け身の印象が強いので、自ら売り出していくといった内容にすれば良いと思われる。市民の皆さんと実行に移す際の力につながっていけばよいと思う。

委員：

- 第2章の国・県の観光の現状と動向についてはとても参考になる。射水市の特徴は何かと考えた時に、日本と同様に観光振興に必要な自然・文化・気候・食という4つの条件を射水市も兼ね備えておりアピールポイントである。例えばP 5 外国人観光客の滞在中の行動の上位は全て射水市で実行することが可能であり、国や県の観光政策も参考にしながら実行に移したり、連携していくことが良いと思われる。

委員：

- 冬の観光客は夏の半分という結果があるが、あいの風富山鉄道で実施したフォトコンテスト等でも応募は冬の写真が多く、冬に魅力を感じる部分は大きく、そういったイベントを通じて冬の魅力の発信することも良いPR方法の一つだと感じる。食・雪の立山連峰・電車などを組み合わせれば、冬の観光客も増えるのではないかな。

委員：

- P 4 4 の図に市民や市内事業者等の記載があるが、今後の実施にあたり具体的な内容としてほしい。また雪が降っていても、北陸の中では富山への観光や生活に問題はないということをもっと発信していくべきである。

委員：

- 先週も降雪量は多かったが、実際に交通機関は機能している。雪に強い富山としてのイメージを確立させることも良いと思われる。また先ほど委員の意見にあったストリートビューについては、好奇心を刺激するためにも全てを公開するのはどうかと思う。

委員：

- ストリートビューは静止画を組み合わせたものであるため、公開してもそこで興味がなくなることはないと思われる。

事務局：

- ストリートビューについて、すでに公共施設の撮影し、一部は公開している。(3月に記者発表も行う)

委員長：

- 全国と比較すると富山県は製造業等が有名ではあるが、あまり観光業には力が入っておらず、評価も低いように感じる。その影響かそういった職業を選ばない学生も多いと感じる。それを改善していかないと観光は地域産業として発展は難しいと思われる。

委員：

- 資源のブラッシュアップや今あるものの情報発信は大切ではあるが、計画上どうしても情報を一元化するというようになってしまいがちなため、何をどうキラーコンテンツ化すべきなのかをはっきりさせなければいけない。これまでこれで儲けようと思う人がいなかった手つかずの観光資源もあるため、それをいかに注視し、効果的に他の観光地とは異なるキラーコンテンツ化を行うのが大切である。近年では新たな観光地づくりという動きも活発になってきているので、今の観光のイメージや先入観を一度捨てて、改めてお互いに資源を見つめなおすことも大切である。

委員：

- 現在チェーン店等がどの観光地でも見られるようになったが、やはりここでしか食べられない・体験できないものを作り出すことや、地元で愛されるお店が観光客に愛されると思う。そういうお店の方や市民が常連客だけでなく観光客も温かく迎えるおもてなしによる受入体制を整えることが大切である。

委員：

- 委員の意見を実現するには、役割分担がなければいけないと感じる。どれか一つだけではいけない、連携が必要である。例えば、旅行会社は団体客を誘致した際にはリベートや補助金が交付される場合がある。お金はほしいが、射水市では特産物の提供や試食などすれば、おもしろくお店で買ってもらえると思うので、事業者の意見を取り入れながら、より楽しんでもらえるような工夫があれば良い。

委員長：

- 委員の意見にあるように、役割分担をして様々な人達と協力していくことが、「つながる」ということである。

委員：

- 資料の中で西暦と和暦の両方の記載があるが、今後元号が変わることも考えると西暦をメインとして統一しておいた方がいいと思われる。

委員長：

- 大変貴重で面白い議論であったが、時間も無くなってきたので議事を終了したい。

事務局：

- 今回の委員会でも貴重な意見をいただいた。行政だけではできないこと、例えば情報発信一つであっても、行政だけで行っても効果は薄い。意欲ある方が企画していただいて、行政が後押しするという時代である。特に、行政は営業が弱いと感じている。

平成30年度からは、観光振興計画推進会議を設置する予定で、委員の皆様には、引き続きお願いすることになると思うが、このような活発な議論をしていただいて、予算要求時にどれだけ反映できるかである。財政状況も厳しい中、人生の約束など映画のロケ地となることで、あまり費用をかけずに情報発信もしてきたが、今後はそのような訳にはいかないと思うので、知恵を出しあい、行政をうまく利用してもらって、この計画を実効性あるものとしたい。

なお、この計画案について、正副委員長から2月21日に、市長に報告してもらおう機会を設けており、併せて今回の議論を報告したい。

事務連絡として、今回いただいた意見を踏まえ修正等については、委員長と相談し調整したい。具体的な事業の意見については、次年度以降の推進会議で検討していきたい。

副委員長閉会あいさつ

- この計画もようやく形になった。攻めの観光戦略は、当然必要で、営業も含めこの計画をもとに攻めに移っていかなければならない。冒頭のあいさつにもあったように計画策定で終わることなく、試行錯誤しながら、観光戦略をどう進めていくのか、皆さんと協力してやっていくべきである。なお、情報の受発信が一番大事であると思っている。また、民間事業者とも連携することも重要である。

会議終了